

令和5年度事業報告書

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

公益財団法人アルカンシエール美術財団

理事長 原 俊夫

令和 5 年度事業報告

I. 事業事項

令和 5 年度 原美術館 ARC 事業概況

令和 5 年度は、ゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類に移行したことを契機とし、インバウンド需要の増加などコロナ禍以前の活況が復活した部分も見受けられたが、同時に、ピークは越えたものの依然として蔓延を続ける新型コロナウイルス感染症を警戒、あるいはコロナ禍で定着した「おうち時間の充実」が継続している部分も散見され、大型連休においても当館はもとより伊香保を中心とする近隣観光地でも人流の予想が難しい一年となった。

当館の当該年度の入館者数は 21,927 名、開館日数は 261 日、平均入館者数は 84 名、入館料収入は 27,826,458 円(税別)であった。(令和 4 年度は 23,959 名、252 日間、平均入館者数 95 名、入館料収入は 18,388,824 円(税別)) 前年度と比較すると、入館者数は 2,032 名の減少となったが、これは当該年度初頭に実施した入館料の値上げに起因している。特に隣接する伊香保グリーン牧場(同様に値上げ)とのセット券利用者数の半減の影響が大きい。(前年までのセット券一般料金 1,800 円、当該年度からは 3,000 円) 主目的の異なる家族連れがメインの牧場からの動員を望むのは今後も困難が予想されるが、諸物価が上昇し、他の美術館の入館料も値上げ傾向にある中、入館者数を増やして行くことは当館にとって今後も重要課題のひとつである。ちなみに入館料収入は、前年比 9,437,634 円(税別)の増収となった。また、春の入館料アップに合わせ導入した、オンラインによるチケット前売りシステムやキャッシュレス決済は、利用者が確実に増加しており、チケットブースの混雑緩和にも貢献している。

なお、令和 3 年 1 月に閉館した原美術館(東京)からの常設インスタレーション作品および野外作品の当館への移設工事は、李 禹煥作『関係項』の前庭への設置と、ジャン=ピエール レイノー作『ゼロの空間』の開架式収蔵庫への移設をもってすべて完了した。それぞれの作品が品川とは全く異なる環境の元、新しい表情で来館者を迎えている。(計 10 作品)

さて、当該年度は、「青空は、太陽の反対側にある」と題して、春夏季と秋冬季の二期にわたるコレクション展を開催した。自身の理想を求めて当時の美術的・社会的動向に背を向け独自の道を追求した作家たちを中心に、春夏季では奈良美智や横尾忠則、アイ ウエイウェイ、秋冬季では、荒川修作やアルマン、工藤哲巳といった次世代に伝えたいアーティストによる作品の数々を展覧。古美術は春夏季では国宝『青磁下蕪花瓶』および『青磁袴腰香炉』といった稀代の名品を中心に、秋冬季では本阿弥光悦による『謡本』や司馬江漢『富嶽図』、横山大観『海辺曙色図』などを公開した。

また、令和 3 年度末に原俊夫理事長より寄贈された、原六郎による収集品 111 点のうち、室町・鎌倉・南北朝時代に制作された貴重な仏教絵画(計 5 点)の修復作業を開始した。完了は 2025 年春の予定

である。現代美術部門では、イヴ クライン作『無題(青いスポンジ彫刻)(SE 164)』(1960 年)の修復を実施した。

マスコミの取材件数は 182 件、うち和文媒体 180 件、外国語媒体 2 件であった。

株式会社アーテックが当財団より委託され営業している The Museum Shop の年間利用客数は 4,935 名、対総入館者比は 22%、売り上げは 1,594 万円。カフェ ダールの年間利用客数は 7,867 名、対総入館者比は 35.9%であった。

A. 学芸事項

今期において次の通り展覧会を開催した。

【1】原美術館 ARC

展覧会

(a) コレクション展「青空は、太陽の反対側にある：原美術館／原六郎コレクション」

会期 第 1 期 (春夏季) 2023 年 3 月 24 日—9 月 3 日

*古美術展示替え：4 月 27 日、6 月 29 日

第 2 期 (秋冬季) 2023 年 9 月 9 日—2024 年 1 月 8 日

*古美術展示替え：11 月 9 日

開催日数 第 1 期：147 日 第 2 期：107 日 計：254 日

入館者数

第 1 期：12,129 人 (1 日平均 82.5 人)

第 2 期：8,203 人 (1 日平均 76.6 人) 計：20,332 人 (1 日平均 80 人)

会場 原美術館 ARC (展示室：現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵)

内容 作品制作や鑑賞のあり方を表す言葉を原美術館 ARC の豊かな自然環境に求め、「青空は、太陽の反対側にある」と題し、収蔵作品を 2 期に分け展観した。

原美術館 ARC を訪れて最初に目にする空の青さは感動的であるが、そこにはわずかに濃淡があり、太陽の方向はやや白く、反対側は順光に照らされ美しい青色になる。理想的な青い空が太陽の反対側にあることから、「反対」をテーマとし、自身の理想を求めて既存の価値観に抗う作家や、視点を変えることで独自の地平を切り開く作家の作品を現代美術ギャラリーに展示した。また、奈良美智の常設作品『My Drawing Room』の青森県立美術館への貸出に伴い、年を重ねても子供の視線で制作を続けようとする奈良氏による映像や写真を特別に展示した。

観海庵も同じく「反対」というテーマの下、鎖国の江戸期に西洋絵画や科学に傾倒した司馬江漢や、「朦朧体」と揶揄されながらも墨線を否定し、独自の表現を切り開いた横山大観の作品を展示した。その他、通常は東京国立博物館に寄託している原六郎コレクション、『青磁下蕪花

瓶』(国宝)と『青磁袴腰香炉』を一時寄託解除し展示(3月24日～4月26日)。また、「光悦本」と呼ばれる希少な古活字本である『謡本』を帖替えしながら通年で展示した。記録に残る限りでは、『青磁袴腰香炉』は明治45年に東京帝室博物館(現東京国立博物館)開催の「和漢青磁器」展以来の一般公開、『謡本』は初公開という貴重な機会とした。

出品作家 第1期(春夏季)

現代美術：艾未未、磯崎新、イェルク インメンドルフ、アンディ ウォーホル、河原温、リーキット、白髪一雄、ギルバート& ジョージ、スラシ クソンウォン、佐藤時啓、佐藤雅晴、ヴィルヘルム サスナル、ジョージ シーガル、須田悦弘、ディヴィッド スミス、ルフィーノ タマヨ、ヴィレム デ クーニング、イヴ クライン、多田美波、ジャン デュビュッフエ、奈良美智、ゲオルク バゼリッツ、A. R. ペンク、ジャン ホワン、ヨーゼフ ボイス、ロバート メイプルソープ、森村泰昌、やなぎみわ、横尾忠則、ジム ランビー、ロ1イ リキ テンシュタイン、ジャン=ピエール レイノー、マーク ロスコ、『ポートフォリオ：ボイスのために』

古美術：狩野派『花鳥図』『花鳥図屏風』『層嶺瀑布図』、岸駒、谷文晁、本阿弥光悦、森徹山、『紫陽花蒔絵重箱』、『軍配に鉄仙蒔絵刀筒』、『青磁鳥形水注』、『青磁下蕪花瓶』、『青磁袴腰香炉』、『光悦謡本』、『芳野山蒔絵料紙箱・硯箱』

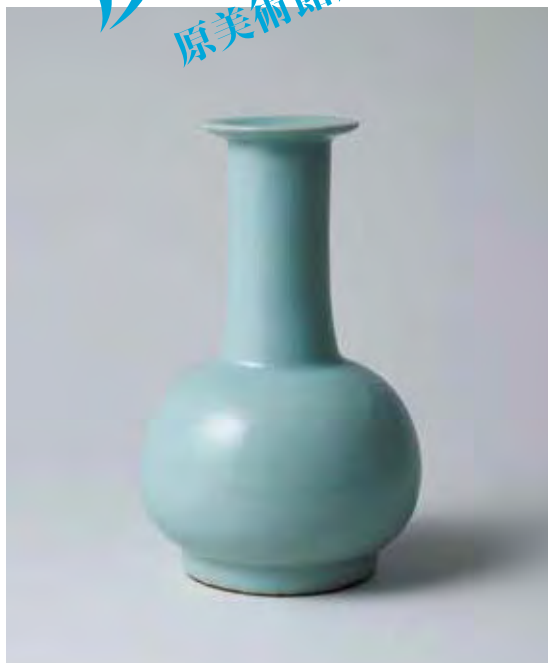
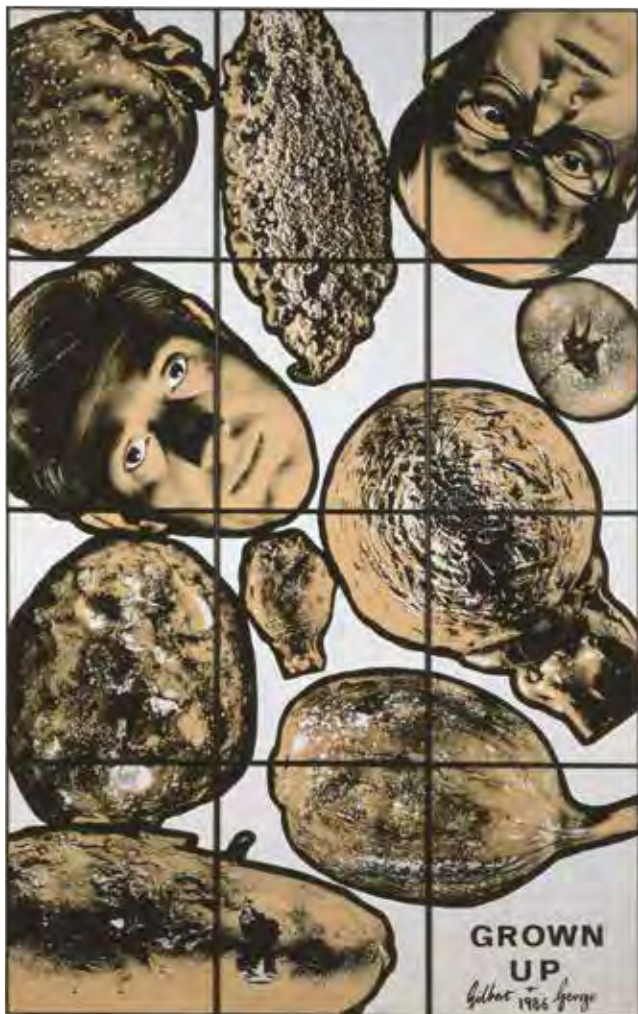
第2期(秋冬季)

現代美術：カレル アペル、荒川修作、アルマン、アルマンド、内倉ひとみ、クレス オルデンバーク、エドワード キーンホルツ、工藤哲巳、久保田成子、クリスト、佐藤時啓、ジュリアン サルメント、ピーター スタンフリ、篠原有司男、セザール、高木由利子、多田美波、アントニ タピエス、奈良美智、蜷川実花、エルネスト ネット、野口里佳、ナム ジュン パイク、シグマー ポルケ、ルドルフ ボランスキー、森弘治、ラスロ ラクナー、サイモン リング、ジャン=ピエール レイノー

古美術：狩野探幽、木下応受、呉春、司馬江漢、徐霖、平福百穂、円山応挙、横山大観、『光悦謡本』、『青磁鳥形水注』、『白備前鴨香炉』、『三川内焼鳥香炉』、『武蔵野図屏風』、『葡萄栗鼠蒔絵提重』

青空は、 太陽の 反対側にある

原美術館 / 原六郎コレクション



Opposite the Sun Is Where the Blue Sky Lies

Works from the Hara Museum and the Hara Rokuro Collections



第1期 [春夏季] 2023年3月24日(金) - 9月3日(日)

第2期 [秋冬季] 2023年9月 9日(土) - 2024年1月8日(月・祝)

Part I: March 24 (Friday) - September 3 (Sunday), 2023

Part II: September 9 (Saturday), 2023 - January 8 (Monday/national holiday), 2024

ギルバート&ジョージ「成熟」1986年【第1期】

国宝「青磁下蕪花瓶」南宋時代 撮影:上野剛宏【展示期間:3月24日~4月26日】

篠原有司男「シマウマとライオンのイチゴ合戦」1992年 撮影:木暮伸也【第2期】

Gilbert & George, *Grown Up*, 1986 ©Gilbert & George [Part I]

National Treasure Celadon vase with long neck on globular body, Southern Song dynasty

Photo by Norihiro Ueno [On display from March 24 to April 26]

Ushio Shinohara, *Strawberry Battle of Zebra and Lions*, 1992 ©Ushio Shinohara Photo by Shinya Kigure [Part II]

国宝
「青磁下蕪花瓶」
お里帰り!
4/26まで公開

青空は、太陽の反対側にある

雲ひとつない晴れた日に原美術館ARCを訪れて最初に目にするもの——それは大きな青空です。青空と山々の深緑や紅葉、そして青空と端正な黒色の磯崎新建築とのコントラストは、恐らくここでしか見ることでできない感動の光景。しかしよく見ると、青空の青さにはわずかに濃淡があります。輝く太陽の周りは少し白っぽく、太陽から離れるにつれ青さが増してゆく。思い描く理想の青い空は太陽の反対側にあります。

If you visit Hara Museum ARC on a clear, cloudless day, the first thing you will notice is the expansive sky spreading out before you. The contrast between the blue of the sky and the deep green of the mountains, the autumn color of the leaves and the stark black of Arata Isozaki's architecture presents an awe-inspiring sight not to be found elsewhere. Averting your gaze from the white glare of the sun, you will notice that the blue of the sky becomes deeper the further away you look, becoming its deepest and most beautiful at the furthest points opposite the sun.

青空は、太陽の反対側にある：原美術館／原六郎コレクション

第1期[春夏季] 2023年3月24日(金)ー9月3日(日)

第2期[秋冬季] 2023年9月9日(土)ー2024年1月8日(月・祝)

*特別展示室「観海庵」は、第1期、第2期ともに会期中各1回の展示替えがあります。

Opposite the Sun Is Where the Blue Sky Lies: Works from the Hara Museum and the Hara Rokuro Collections

Part I: March 24 (Friday) – September 3 (Sunday), 2023

Part II: September 9 (Saturday), 2023 – January 8 (Monday/national holiday), 2024

* One change of exhibits will take place at the Kankai Pavilion during Part I and Part II of the exhibition.

本展では、「青空は、太陽の反対側にある」をキーフレーズに、自身の理想を求めて当時の美術的・社会的動向に背を向けた荒川修作や久保田成子、ギルバート&ジョージやヨーゼフボイスなど、国内外の作家の表現を展覧します。

まず、現代美術ギャラリーA・B・Cでは、常識や慣習、既存の価値観に抗うことで、または視点を変えることで独自の地平を切り開く作家や、声高ではなくとも社会や美術の潮流に疑問を呈する作家、そして自身の心に深く潜ることで新たな表現を浮上させる作家の作品をご覧ください。

一方、特別展示室「観海庵」には、鎖国の江戸期に西洋絵画や科学に傾倒した司馬江漢や、「朦朧体」と揶揄されながらも墨線を否定し、独自の表現を切り開いた横山大観の作品を展示します。また、通常は東京国立博物館に寄託している原六郎コレクション、『青磁下無花瓶』(国宝)と『青磁袴腰香炉』がお里帰り(展示期間:3月24日~4月26日)。どちらも爽やかな青空色が美しい名品です。さらに、「光悦本」と呼ばれる希少な古活字本である『謡本』を帖を替えながら通年展示。記録に残る限りでは、『青磁袴腰香炉』は明治45年に東京皇室博物館(現 東京国立博物館)開催の特別展覧会「和漢青磁器」展以来の一般公開、『謡本』は初公開となります。

輝く太陽にあえて背を向け、順光に映し出される鮮やかな青空と原美術館ARCをどうぞご堪能ください。

If the sky were the art world, then the sun would be where the mainstream and more orthodox expression dominate, while the areas opposite the sun are where artists break new ground by defying conventional wisdom and current values, adopt different points of view, question social and artistic trends in their own quiet ways and dive deep within themselves to find new ways of expression. The works by such artists from Japan and abroad, including Shusaku Arakawa, Shigeko Kubota, Gilbert & George and Joseph Beuys, are presented in Galleries A, B and C.

On display in the special exhibition space Kankai Pavilion will be works by Shiba Kokan, who devoted himself to Western painting and science during the Edo period when Japan was closed to the world, and Yokoyama Taikan, who rejected the traditional reliance in Japanese painting on line and pioneered his own style, despite being pejoratively dubbed “morotai” or “vague.” Also on view will be beautiful masterworks exquisitely colored sky blue: *Celadon vase with long neck on globular body* (National Treasure) and *Celadon glazed incense burner* (on display from March 24 to April 26), two works from the Hara Rokuro Collection which are normally kept at the Tokyo National Museum; and *Koetsu-bon*, rare specimens of Noh librettos, or *Utaibon*, the selection of which will be varied throughout the year in both Part I and Part II. According to existing records, *Celadon glazed incense burner* last appeared in the special exhibition *Japanese and Chinese Celadon Ware* that was held at the Tokyo Imperial Household Museum (now Tokyo National Museum) in 1902. The Noh librettos, on the other hand, are being shown to the public for the first time ever.

So why not come to Hara Museum ARC where you can turn your gaze away from dazzling sunlight and enjoy the beautiful blue sky and the museum buildings spreading out before you?



上段左より
From top left

奈良美智「My Drawing Room」2004/2021年
Yoshitomo Nara, *My Drawing Room*, 2004/2021
©Yoshitomo Nara

*「My Drawing Room」内全作品貸出のため、第2期は作家による特別展示になります。
* This work will be on loan during Part II. A special exhibit by the artist will be displayed instead.

森村泰昌「輪舞(双子)」1994/2021年
Yasumasa Morimura, *Rondo (Twins)*, 1994/2021
©Yasumasa Morimura

宮島達男「時の連鎖」1989/1994/2021年
Tatsuo Miyajima, *Time Link*, 1989/1994/2021
©Tatsuo Miyajima

草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」1991/1992年
Yayoi Kusama, *Mirror Room (Pumpkin)*, 1991/1992
©Yayoi Kusama

鈴木康広「日本列島のベンチ」2014/2021年
Yasuhiro Suzuki, *Bench of the Japanese Archipelago*, 2014/2021 ©Yasuhiro Suzuki

以上撮影：木暮伸也
Photos by Shinya Kigure

オラフアー エリアソン「Sunspace for Shibukawa」2009年
Olafur Eliasson, *Sunspace for Shibukawa*, 2009
©2009 Olafur Eliasson

出品作家(予定)

第1期[春夏季]

現代美術: 艾未未(アイ ウェイウェイ)/安藤正子/イェルク インメンドルフ
河原温/リー・キット/ギルバート&ジョージ/スラシ クソンウォン/佐藤時啓
須田悦弘/奈良美智/ゲオルク バゼリッツ/A. R. ペンク/ヨーゼフ ボイス
やなぎみわ/横尾忠則/ジム ランビー/ロイ リキテンシュタイン
ジャン=ピエール レイノー など

古美術: 「青磁下蕪花瓶」(国宝) / 「青磁袴腰香炉」 / 「光悦謡本」 / 狩野派「花鳥
図屏風」(三井寺旧日光院客殿障屏画) / 「軍配に鉄仙時絵刀筒」 / 本阿弥光悦
「蝶下絵和歌巻(古今和歌集春歌上)」など

第2期[秋冬季]

現代美術: 荒川修作/カレル アペル/アルマン/アルマンド
クレス オルデンバーグ/工藤哲巳/久保田成子/クリスト/ヴィレム デ クーニング
篠原有司男/アントニ タビエス/蜷川実花/エルネスト ネット
ロバート メイブルソープ/森村泰昌 など

古美術: 司馬江漢「富嶽図」、横山大観「海辺曙色図」 / 「光悦謡本」 など

長期展示: オラファー エリアソン「Sunspace for Shibukawa」

アニッシュ カプア「虚空」 / 草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」
鈴木康広「日本列島のベンチ」 / 束芋「真夜中の海」
奈良美智「My Drawing Room」 / 宮島達男「時の連鎖」
森村泰昌「輪舞(双子)」 など

Featured Artists (slated)

Part I Spring-Summer

Contemporary Art: Masako Ando/ Georg Baselitz/ Joseph Beuys/ Gilbert & George/ Jörg Immendorff/ On Kawara/ Lee Kit/ Surasi Kusolwong
Jim Lambie/ Roy Lichtenstein/ Yoshitomo Nara/ A. R. Penck/Jan-Pierre Raynaud
Tokihiko Sato/ Yoshihiro Suda/ Ai Weiwei/ Miwa Yanagi/ Tadanori Yokoo and others

Traditional Art: Celadon vase with long neck on globular body/ Celadon glazed
incense burner/ Koetsu Utaibon/ Kano school, Birds and flowers*/ Case of a sword
decorated with clematis and war fan patter design in maki-e/ Hon'ami Koetsu,
Waka poem "Kokin Waka-shu," first part of "Spring" chapter with painted ground
and butterfly design and others

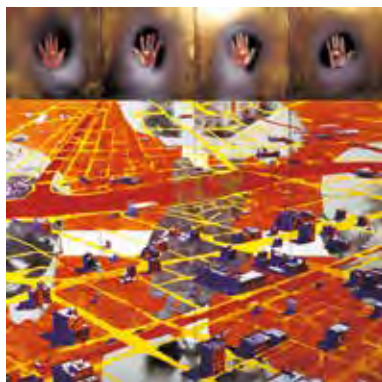
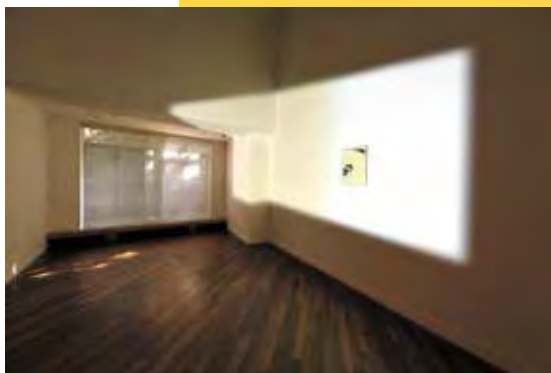
* Part of paintings used for wallpaper and sliding doors at Nikko-in guest hall in
Mi'idera temple.

Part II Autumn-Winter

Contemporary Art: Shusaku Arakawa/ Karel Appel/ Arman/ Armando/ Christo
Willem de Kooning/ Shigeo Kubota/ Tetsumi Kudo/ Robert Mapplethorpe
Yasumasa Morimura/ Ernesto Neto/ Mika Ninagawa/ Claes Oldenburg
Ushio Shinohara/ Antoni Tàpies and others

Traditional Art: Shiba Kokan, Landscape of Mt. Fuji/ Yokoyama Taikan, Seaside
landscape with sunrise/ Koetsu Utaibon and others

Parts I and II: Olafur Eliasson, Sunspace for Shibukawa/ Anish Kapoor, Void
Yayoi Kusama, Mirror Room (Pumpkin)/ Tatsuo Miyajima, Time Link
Yasumasa Morimura, Rondo (Twins)/ Yoshitomo Nara, My drawing Room
Yasuhiro Suzuki, Bench of the Japanese Archipelago/ Tabaimo, Midnight Sea and
others



上段左より

スラシ クソンウォン「Small is Beautiful- Floating Market」2001年 / 艾未未「毛像組 1」1985年
やなぎみわ「My Grandmothers: AI」2003年 / 佐藤時啓「光一呼吸 HaraArc #3」2020年
リー・キット「Flowers」2018年(原美術館での展示風景) / ジャン=ピエール レイノー「十字架」
1972年 / 横尾忠則「戦後」1985年 / 奈良美智「Eve of Destruction」2006年 / 「軍配に鉄仙時絵
刀筒」江戸時代 / 本阿弥光悦「蝶下絵和歌巻(古今和歌集春歌上)」江戸時代(部分)

From top left

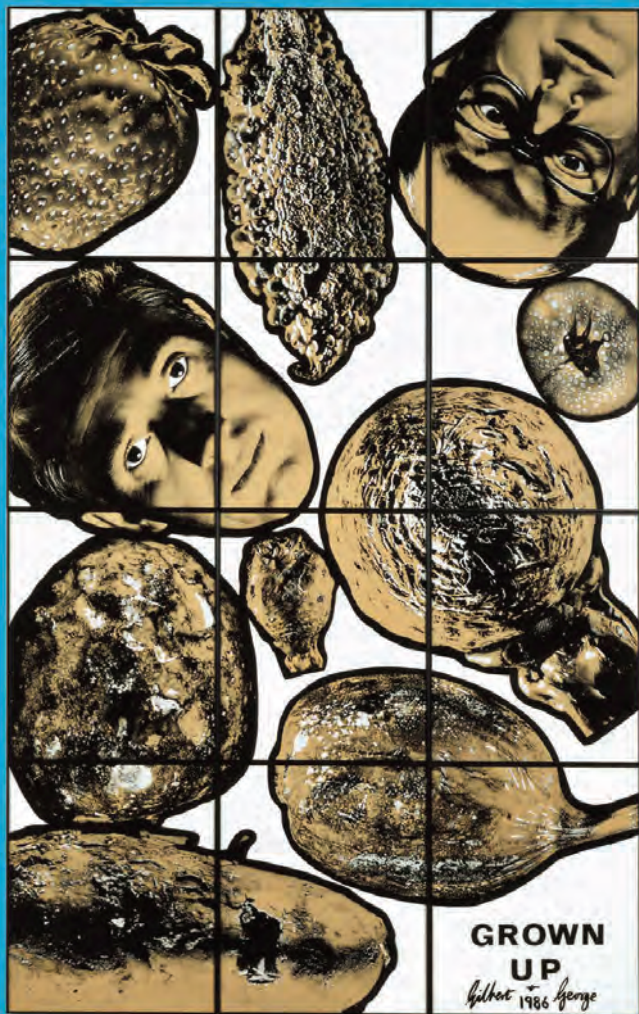
Surasi Kusolwong, Small is Beautiful- Floating Market, 2001 ©Surasi Kusolwong/ Ai Weiwei, Mao
Images 1, 1985 ©Ai Weiwei/ Miwa Yanagi, My Grandmothers: AI, 2003 ©Miwa Yanagi/ Tokihiko
Sato, Photo-Respiration HaraArc#3, 2020 ©Tokihiko Sato/ Lee Kit, Flowers, 2018 ©Lee Kit
(Installation view at Hara Museum of Contemporary Art)/ Jean-Pierre Raynaud, Croix, 1972
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 G3070/ Tadanori Yokoo, Post War, 1985 ©Tadanori
Yokoo/ Yoshitomo Nara, Eve of Destruction, 2006 ©Yoshitomo Nara/ Case of a sword
decorated with clematis and war fan patter design in maki-e, Edo period/ Hon'ami Koetsu, Waka poem
"Kokin Waka-shu," first part of "Spring" chapter with painted ground and butterfly design, Edo
period (detail)

青空は、 太陽の 反対側にある

原美術館 / 原六郎コレクション

Opposite the Sun Is Where the Blue Sky Lies

Works from the Hara Museum and the Hara Rokuro Collections



第1期 [春夏季] 2023年3月24日(金) - 9月3日(日)
 第2期 [秋冬季] 2023年9月9日(土) - 2024年1月8日(月・祝)

Part I: March 24 (Friday) - September 3 (Sunday), 2023
 Part II: September 9 (Saturday), 2023 - January 8 (Monday national holiday), 2024

原六郎「アトモスフィア」1986年【第1期】
 「雲畑鳥形水注」前室時代【全期】
 森原有司男「シマウマとライオンのイチャイチャ」1992年【第2期】
 Gilbert & George, *Grown Up*, 1986 ©Gilbert & George (Part I)
 Bird-shaped Celadon water pitcher vase, Goryeo dynasty (Part I & II)
 Ushio Shinohara, *Strawberry Bottle of Zobia and Lions*, 1992 ©Ushio Shinohara (Part I)



出品作家(予定)

第1期[春夏季]

現代美術: 艾未未(アイ ウェイウェイ)/安藤正子/河原温/リー・キット
 ギルバート&ジョージ/須田悦弘/奈良美智/ゲオルク バゼリッツ/A. R. ペンク
 ヨーゼフ ボイス/やなぎみわ/横尾忠則/ジム ランビー
 ロイ リキテンシュタイン など
 古美術: 「青磁下蕪花瓶」(国宝)/「青磁袴腰香炉」/「光悦謡本」 など

第2期[秋冬季]

現代美術: 荒川修作/カレル アペル/アルマン/アルマンド/クレス オルデンバーク
 工藤哲巳/久保田成子/クリスト/ヴィレム デクーニング/佐藤時啓/篠原有司男
 蜷川実花/エルネスト ネット/野口里佳/ロバート メイブルソープ/森村泰昌 など
 古美術: 司馬江漢「富嶽図」/横山大観「海辺曙色図」/「光悦謡本」/「青磁鳥形水注」/「武蔵野図屏風」など

長期展示: アニッシュ Kapoor「虚空」/草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」
 鈴木康広「日本列島のベンチ」/東芋「真夜中の海」/宮島達男「時の連鎖」
 森村泰昌「輪舞(双子)」 など

Featured Artists (slated)

Part I Spring-Summer

Contemporary Art: Masako Ando/ Georg Baselitz/ Joseph Beuys/ Gilbert & George/ On Kawara/ Lee Kit/ Jim Lambie/ Roy Lichtenstein/ Yoshitomo Nara
 A. R. Penck/ Jan-Pierre Raynaud/ Yoshihiro Suda/ Ai Weiwei/ Tadanori Yokoo and others

Traditional Art: Celadon vase with long neck on globular body/ Celadon glazed incense burner/ Koetsu-bon and others

Part II Autumn-Winter

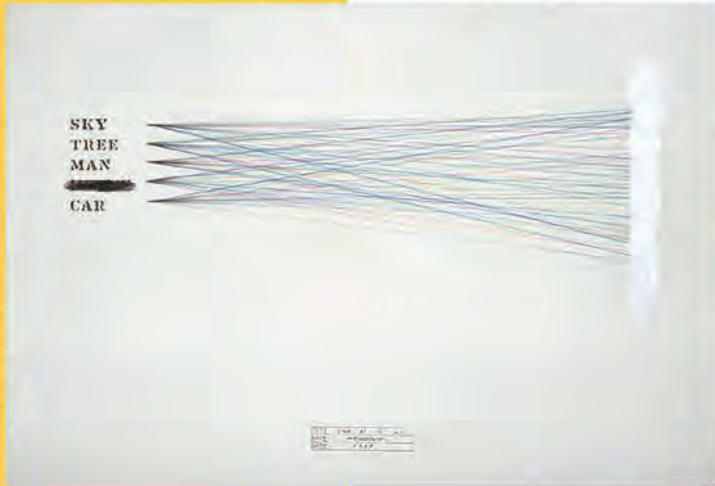
Contemporary Art: Karel Appel/ Arakawa/ Arman/ Armando/ Christo
 Willem de Kooning/ Shigeo Kubota/ Tetsumi Kudo/ Robert Mapplethorpe
 Yasumasa Morimura/ Ernesto Neto/ Mika Ninagawa/ Noguchi Rika
 Claes Oldenburg/ Tokihiro Sato/ Ushio Shinohara and others

Traditional Art: Shiba Kokan, Landscape of Mt. Fuji/ Yokoyama Taikan, Seaside landscape with sunrise/ Field with the moon, the subject called "Musashino" in Japanese/ Bird-shaped Celadon water pitcher vase/ Koetsu-bon and others

Parts I and II: Anish Kapoor, Void/ Yayoi Kusama, Mirror Room (Pumpkin)
 Tatsuo Miyajima, Time Link/ Yasumasa Morimura, Rondo (Twins)
 Yasuhiro Suzuki, Bench of the Japanese Archipelago/ Tabaimo, Midnight Sea and others

奈良美智「My Drawing Room」は室内の全作品貸出しのため、作家による特別展示となります(9月9日~2024年1月8日)。
 My Drawing Room will be on loan and a special exhibit by Yoshitomo Nara will be displayed instead (September 9 - January 8, 2024).

12月2日(土) 講演会 「Meet the Artist: 奈良美智」開催! 詳細は、美術館ウェブサイトにて
 December 2 (Saturday) Meet the Artist: Yoshitomo Nara Check our website for details.



上段左より
 From top left

久保田成子「デュシャンピアナ: 自転車の車輪1, 2, 3」1990年
 Shigeo Kubota, Duchampiana: Bicycle Wheel One, Two, Three, 1990 ©2023 Estate of Shigeo Kubota/ Licensed by VAGA at Artists Rights Society (ARS)

クリスト「アンブレラ、日本とアメリカ合衆国のジョイントプロジェクト」1986年
 Christo, The Umbrellas, Joint Project for Japan and USA, 1986 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 G3248

横山大観「海辺曙色図」明治時代
 Yokoyama Taikan, Seaside landscape with sunrise, Meiji period

蜷川実花「PLANT A TREE」2011年
 Mika Ninagawa, PLANT A TREE, 2011 ©mika ninagawa

荒川修作「それを見よ No.3」1968年
 Arakawa, Look at It No.3, 1968 ©2023 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.

「武蔵野図屏風」江戸時代(部分)
 Field with the moon, the subject called "Musashino" in Japanese, Edo period (detail)



(b) コレクション展「日本のまんなかでアートをさげんでみる」

会期 2024 年 3 月 16 日—3 月 31 日

(※2024 年度へ継続 2024 年 3 月 16 日—9 月 8 日)

会場 原美術館 ARC (展示室：現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵)

開催日数 ※2023 年度中の開催日数は 14 日間 (3 月 16 日—31 日)

入館者数 (3 月 31 日時点の 14 日間) 1,595 人 (1 日平均 113 人)

内容 2021 年の始動以来、当館から発信する意味や意義を考慮した展覧会の開催を心掛けている原美術館 ARC では、4 年目となる 2024 年、当館の所在地である渋川市が日本の中心 (日本の主要四島で最北端の北海道宗谷岬と最南端の鹿児島県佐多岬を円で結んだ中心に位置する) と自称することから発想し、中心とは何かを問い、様々な中心と周縁との関係を考察するコレクション展を開催する。

なお、展覧会は展示室内にとどまらず、屋外作品や常設作品も含め原美術館 ARC 全体をアピールする内容である。

出品作家

現代美術：安藤正子、磯崎新、榎倉康二、草間彌生、崔在銀、佐藤時啓、杉本博司、戸谷成雄、名和晃平、ヤン ファーブル、バックミンスター フラー、ジョナサン ボロフスキー、森村泰昌、ロバート メイプルソープ、アドリアナ ヴァレジョンなど

古美術：岸駒、雪村、長沢蘆雪、林登科、『角力図屏風』など

屋外作品・常設作品：草間彌生『ミラールーム (かぼちゃ)』、奈良美智『My Drawing Room』、宮島達男『時の連鎖』、東芋『真夜中の海』、鈴木康広『日本列島のベンチ』、アンディ ウォーホル『キャンベルズ トマト スープ』、オラファー エリアソン『Sunspace for Shibukawa』、ジャン＝ミッシェル オトニエル『Kokoro』など

A Shout Out for Art

アートをぜひ楽しんでみる

日本のまなざし

from the Center of Japan



2024年3月16日(土)－9月8日(日)

March 16 (Saturday) — September 8 (Sunday), 2024

主催・会場 原美術館ARC

開館時間 9:30 am – 4:30 pm(入館は4:00 pmまで) 休館日 木曜日(5月2日、8月を除く)

入館料 一般 1,800円、大高生 1,000円、小中生 800円、70歳以上 1,500円

*お得な前売りオンラインチケットあり(日にち指定)、原美術館ARCメンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内小中学生無料

高崎駅西口発着シャトルバス運行開始予定(4～10月の毎週日曜日) 詳細は当館ウェブサイトへ

Venue and organized by: Hara Museum ARC

Hours: 9:30 am – 4:30 pm (last entry at 4:00 pm) Closed: Thursdays (except May 2, the month of August)

Admission: General 1,800 yen, Students 1,000 yen [high school and university] or 800 yen [elementary and junior high]

A new shuttle bus service between JR Takasaki Station (west exit) and ARC will operate every Sunday from April until October. For details, please go to our website.

アンディ・ウォーホル「キャンベルズ トマト スープ」1981 鉄鋼にエナメル絵具 撮影:木暮伸也

Andy Warhol, Campbell's Tomato Soup, 1981 enamel on steel © 2023 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3398

Photo by: Shinya Kigure



原美術館ARCは日本の中心にあります。日本の中心と言っても、誰もが思い浮かべる東京ではありません。ここは群馬県渋川市、「日本のまんなか」と称する街に原美術館ARCがあります。

中心とは何なのでしょう？伊香保の名湯を有し、上毛の山々をのぞむ渋川市は、日本の主要四島の最北端と最南端を円で結んだ中心に位置することから「日本のまんなか」とされる街です。しかし、「日本の中心」、「真ん中」を称する街は他にもあります。つまり、物事を捉える角度や尺度次第で、中心はその位置を様々に変化させるのです。

原美術館ARCは、原美術館(東京・品川)が別館ハラ ミュージアム アーク(群馬・渋川)と統合し2021年に誕生した美術館です。企画展を主軸としていた原美術館とは異なり、ここでは主に現代美術と東洋古美術の収蔵作品展を開催しています。このことは一般的に、原美術館が中心都市・東京からその周縁に拠点を移したと捉えられるでしょう。企画展を中心にすすめる日本では、収蔵作品展は周縁の展覧会とされるでしょう。

ですが、災禍を経験している私たちの視界には、豊かな自然の移ろいとともにより時間芸術とも呼べるここでのアート体験が入ってきましたし、地球の持続可能性が危ぶまれる現在では、大掛かりな宣伝や演出を伴う企画展ではなく、アーティストとの信頼関係を礎として今ここにある作品群と向き合う収蔵作品展こそが原美術館ARCの中心的な役割のひとつであると考えています。

アートとは、中心(既成概念)をずらす思考のことであり、中心を変えることは先端に立つことでもあります。かつて世の中の視線が新しさに向いていた日本で、廃墟と化した戦前の洋館を「原美術館」として維持続けたことや、RC造が公共建築の当たり前だった時代にハラ ミュージアム アークを木造にしたことが先駆的であったように、そもそも価値の定まっていなかった現代美術を両館から国内外に発信した活動が先進的であったように、原美術館ARCも先端に立ち続けようと思います。そして、周縁とみなされがちなアートという営みを、出会った誰もが大好きになる中心的な場であり続けようと思います。ここで、お待ちしております。

主な出品作家・作品 (予定)

現代美術: 安藤正子、磯崎新、アドリアナ ヴアレジョン、榎倉康二、草間彌生、佐藤時啓、杉本博司、東芽、戸谷成雄、奈良美智、名和晃平、ヤン ファーブル、バックミンスター フラー、ジョナサン ポロフスキー、ロバート メイプルソープ、森村泰昌など

古美術: 雪村、長沢蓬雪、林登科、角力図屏風 など

屋外作品: アンディ ウォーホル「キャンベルズ トマト スープ」、オラファー エリアソン「Sunspace for Shibukawa」、ジャン=ミシェル オトニエル「Kokoro」、鈴木康広「日本列島のベンチ」など

Hara Museum ARC is located at the center of Japan. By this we mean it lies at the geographical center of a circle that connects the northernmost and southernmost points of Japan's four major islands.

The history of Hara Museum ARC began as an annex to Hara Museum of Contemporary Art in Shinagawa, Tokyo. We became the sole venue after the closure of the Hara Museum in 2021. But unlike the Hara Museum, which focused mainly on special exhibitions, the focus of Hara Museum ARC is on works from its permanent collection of contemporary and traditional East Asian art. This change from the center to the periphery may thus be seen in two ways: geographically (from Tokyo to Shibukawa) and thematically (from special exhibitions to permanent collection exhibitions).

But being on the periphery while occupying a position in the center of Japan has given us a new perspective, especially having survived a pandemic in the interim. This new perspective has made us aware of art as something that is experienced in time and space within the rich transitions of nature. And given the threats to the Earth's survival, we now believe our role is to de-emphasize exhibitions that involve large-scale advertising and staging and to prioritize exhibitions that focus on the art now on hand in our collections.

Hara Museum and the Hara Museum ARC have challenged many mainstream viewpoints in these and other ways. In the past, we did this by preserving and perpetuating an abandoned, dilapidated, pre-war Western-style structure as its venue within a Japanese milieu that favors the new; by adopting wood construction for Hara Museum ARC's buildings when reinforced concrete is the norm in public architecture; by its promotion of art that had yet to find wide public acceptance.

Hara Museum ARC, from its peripheral position at the center of Japan, intends to continue its shout out to art by offering all who come the opportunity to encounter, think about, and fall in love with that which is often perceived as a peripheral phenomenon.

Featured works and Artists (slated)

Contemporary Art: Masako Ando, Jonathsan Borofsky, Koji Enokura, Jan Fabre, Buckminster Fuller, Arata Isozaki, Yayoi Kusama, Robert Mapplethorpe, Yasumasa Morimura, Yoshitomo Nara, Kohei Nawa, Tokihiro Sato, Hiroshi Sugimoto, Tabaimo, Shigeo Toya, Adriana Varejão and others

Traditional Art: Lin Dengke, Nagasawa Rosetsu, Sesson, Sumo match and others

Outdoor Installations: Olafur Eliasson, Sunspace for Shibukawa, Jean-Michel Othoniel, Kokoro, Yasuhiro Suzuki, Bench of the Japanese Archipelago, Andy Warhol, Campbell's Tomato Soup and others



オラファー エリアソン「Sunspace for Shibukawa」2009 ステンレス、ガラスプリズム ©2009 Olafur Eliasson/鈴木康広 日本列島のベンチ 2014/2021 ミクストメディア ©Yasuhiro Suzuki 撮影:木暮伸也/アドリアナ ヴアレジョン「スイミングプール」2005 カンヴァスに油彩 110 x 140 cm ©Adriana Varejão/安藤正子「豊岡にひそむ海のように」2006 ハネル張りカンヴァスに油彩 各140 x 220 cm (2点組) ©Masako Ando/佐藤時啓「光一呼吸 Harabi#2」2020 ピグメントプリント 150 x 197 cm ©Tokihiro Sato/草間彌生「自己消滅」1980 ミクストメディア ©YAYOI KUSAMA 撮影:木暮伸也/筆者不詳「角力図屏風」(左隻)江戸時代 紙本金地着色 六曲一双/書村「列子御風図」室町時代 紙本墨画一幀
Olafur Eliasson, Sunspace for Shibukawa, 2009 stainless steel, glass prism ©2009 Olafur Eliasson/ Yasuhiro Suzuki, Bench of the Japanese Archipelago, 2014/2021 mixed media ©Yasuhiro Suzuki photo by: Shinya Kiguru/ Adriana Varejão, Swimming Pool, 2005 oil on canvas 110 x 140 cm ©Adriana Varejão/ Masako Ando, Like a Friend Hid in a Cloud, 2006 oil on canvas mounted on wood panel 140 x 220 cm each (diptych) ©Masako Ando/ Tokihiro Sato, Photo-Respiration Harabi#2, 2020 pigment print 150 x 197 cm ©Tokihiro Sato Yayoi Kusama, Self-Obliteration, 1980 mixed media ©YAYOI KUSAMA photo by: Shinya Kiguru/ Sesson, Portrait of Lie Zi, Muromachi period

交通案内 電車の場合: JR「高崎駅」西口より原美術館ARC行きシャトルバスにて約1時間(4~10月の毎週日曜日運行予定)。または上越/吾妻線「渋川駅」より、関東交通バス「伊香保温泉」または「伊香保橋名口」行き(3番のりば)にて約15分。「グリーン牧場前」下車、徒歩7分。または「渋川駅」よりタクシーで約10分。
お車の場合: 関東自動車道「渋川・伊香保IC」より8km、約15分。

Directions from Tokyo: Take the Joetsu / Hokuriku Shinkansen to Takasaki, change to the Joetsu / Agatsuma Line and disembark at Shibukawa. From Shibukawa, ARC is 10 minutes away by taxi or 15 minutes away by bus. A shuttle bus from Takasaki will be available every Sunday (April to October). Please see our website for details. By car: 8 kilometers (about 15 minutes) from the Kan-etsu Expressway Shibukawa Ikaho Interchange (in the direction of Ikaho Onsen).



原美術館ARC公式ウェブサイト
Hara Museum ARC official website



原美術館ARC
〒377-0027 群馬県渋川市金井2855-1
2855-1 Kanai, Shibukawa-shi, Gunma 377-0027
Tel: 0279-24-6585 Email: arc@haramuseum.or.jp
https://www.haramuseum.or.jp

【2】作品修復・保存

<現代美術>

イヴ クライン作 「無題（青いスポンジ彫刻）（SE 164）」（1960 年作）の修復を実施した。

（2024 年 2 月 1 日、当館内においてエドワード ヴァティネル氏により、堆積していた埃の除去と補彩、欠損部分の再接着等を実施）

<古美術> 令和 3 年度に原家より受贈した作品 111 点中、以下の仏教絵画（計 5 点）修復を開始した。（7 月 13 日、半田九清堂へ移動、修復作業開始。2-3 か月ごとに両方で進行状況の確認・検討会を繰り返し行い、2025 年 5 月頃作業完了予定）

- 1.七佛曼荼羅
- 2.十一面観音図
- 3.法華曼荼羅図
- 4.宝冠釈迦図
- 5.阿弥陀三尊来迎図

【3】所蔵作品の移設 品川（原美術館）に設置されていた下記作品を原美術館 ARC 内に移設した。

屋外：李 禹煥作「関係項」

h 50×w 211×d 160 (cm)

鉄、石 1991 年作

（2023 年 9 月 21 日実施）



屋内：ジャン＝ピエール レイノー「ゼロの空間」

パーマネントインスタレーション

約 217 x 145 x 580(cm)

タイル、ステンレス 1981 年作

（12 月 12 日－19 日工事実施）

【4】作品の受贈

(1) 古郷秀一氏より、以下の作品を受贈した。

古郷秀一作「限定と無限定」 h 210×w 90×d 116(cm) 鉄 1984年
(屋内展示用)

10月23日搬入



(2) 原俊夫理事長より、以下の作品 10 点を受贈した。

1. イヴ クライン 「赤」 1958年 カンヴァスに油彩 44 x 34 cm



2. ピエロ マンゾーニ 「白ウサギの毛皮」 1961年 板に塗装、毛皮 41.8 x 36 x 4.5 cm



3. 横尾忠則 「葬列 II」 1969/1985年 6枚のアクリル板にシルクスクリーン 74.5 x 113.5 x 9 cm



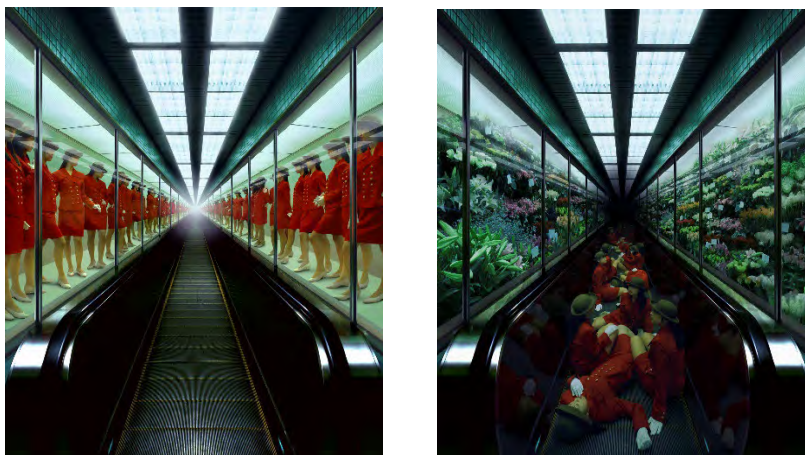
4. 戸谷成雄 「地霊」 1991年 木、灰、鉄、ガラス、アクリル 32 x 118.5 x 61 cm



5. ジャン ホワン 「養魚池の水位をあげるために」 1997年 カラー写真 119.2 x 189.4 cm



6. やなぎみわ 「案内嬢の部屋 1F」 1997年 カラー写真、アクリル 240 x 210 cm (2枚組)



7. 佐伯洋江 「Untitled」 2011年 紙にシャープペンシル、色鉛筆、アクリル 103 x 120 cm



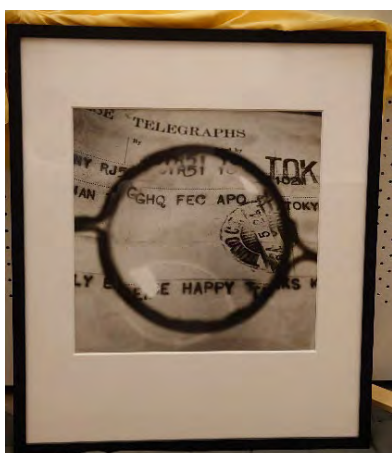
8. ピピロッティ リスト 「Homo Melting Touching Homo」 2007年 カラー写真 115x147 cm



9. ニコラ ビュフ 「聖クリストファー／ユリシーズ」 2014年 木、ペンキ、インダストリアル
マーカー 165.5 x 150 x 35 cm



10. 米田知子 「藤田嗣治の眼鏡—日本出国を助けたシャーマン GHQ 民政官に送った電報を見る」 2015年 ゼラチンシルバークラフト 38 x 38 cm



【5】 作品の受託

奈良美智氏より、以下の作品を受託した。

1. 奈良美智作 「Fountain of Life」 h:175×diam.180(cm) FRP 2001年作
受託期間：2023年3月22日～2026年3月21日 (3年間)



2. 奈良美智作「UKIYO」シリーズ（再加工した木版、ゼロックスプリント、各1999年）より5作品

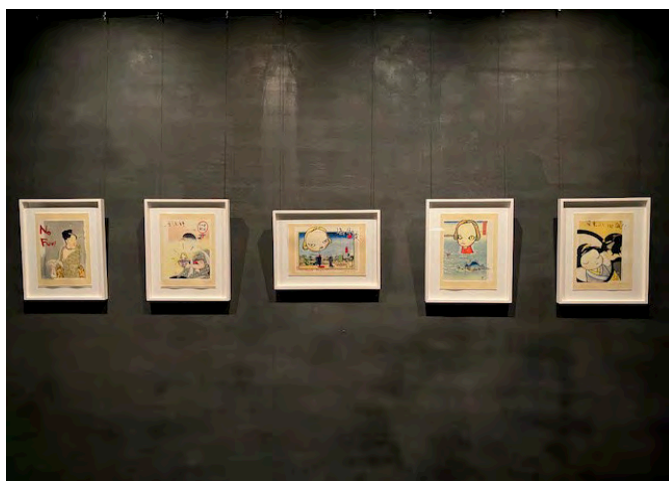
「Mirror (In the Floating World)」, 「Ocean Child (In the Floating World)」

「Full Moon Night (In the Floating World)」, 「Cup Kid (In the Floating World)」

「No Fun! (In the Floating World)」

受託期間：2023年9月4日～2026年3月21日 (暫定)

*青森県立美術館への当館コレクション（奈良作品）貸出のための代替え展示用に搬入・展示した作品（計24作品）の内の一部を、引き続き受託した。



B. 普及事項

【1】 講演会、教育プログラム等

本年度は下記の通り、17件のイベントを開催した。

1. 講演会 中国・朝鮮陶磁の流れ—国宝「青磁下蕪花瓶」を間近に見て

講師：浦上満（浦上蒼穹堂代表）

日時：2023年4月9日（日）14:00-15:30

会場：原美術館 ARC カフェダール

聴講料：1,500円（ワンドリンク付き、入館料別）

原美術館 ARC にて開催中の展覧会「青空は、太陽の反対側にある」にて10年ぶりに展示された国宝「青磁下蕪花瓶」。本作は全国に3点を数える国宝・青磁のうちの1点で、中国から伝来した青磁花瓶の白眉と評されている南宋時代（13世紀）の花入である。本展では同時に、当館初公開となる「青磁袴腰香炉」「高麗青磁鳥形水注」も展覧。これを記念して、鑑賞古陶磁を専門に取り扱う老舗古美術商「浦上蒼穹堂」代表・浦上満氏をお迎えし、講演会を開催した。中国・朝鮮半島の古陶磁について、豊富な画像を交えながら、半世紀に及ぶ経験と眼識に基づき、時代や種類ごとの特徴や魅力、価値、古陶磁をコレクションするヒントなどをお聞きする機会となった。

参加人数：58名（学生招待バスツアー22名含む）

協力：浦上満（浦上蒼穹堂代表）

2. 次世代リーダーのための感性育成プログラム ①美術を学ぶ学生のためのバスツアー

日時：2023年4月9日（日）8:30（集合・バス出発）-19:10（バス到着・解散）

参加費：無料

昨年に引き続き、「次世代リーダーのための感性育成プログラム」を年4回実施した。その第1回目として、美術を学ぶ学生を対象とした東京都（新宿）と原美術館 ARC を往復するバスツアーを開催した。

午前中は2班に分かれ、展覧会鑑賞と、普段は非公開の開架式収蔵庫のガイドツアーを行った。また午後は浦上満氏の講演会へ参加。現代美術だけでなく東洋古美術作品の魅力にも多角的にアプローチできる一日となった。

参加人数：22名

助成：一般財団法人 MRA ハウス

3. 次世代リーダーのための感性育成プログラム ②手話通訳実習

日時：2023年6月4日（日）9:30-12:30

群馬大学共同教育学部で手話通訳を学ぶ学生の実践実習を行った。

手話を学ぶ大学生と、ろう者、当館の学芸員がグループとなり、展示作品を見ながら対話を試みる。学芸員が作品の説明を行い、それを学生がろう者に向けて手話で通訳し、質問や感想に

についても手話を通してその場で丁寧に共有することで、言語や音情報に頼らないコミュニケーションの難しさや楽しさについて改めて考察する機会となった。

学生にとっては、言葉でも説明の難しい作品情報を瞬時に手話で置き換えることの実践経験となり、同時に当館学芸員にとっても、なるべく専門用語を省き、手話通訳のペースに合わせて解説をする工夫が求められる点で様々な気づきがあった。

参加人数：8名（大学生6名、教員2名）

協力：群馬大学共同教育学部

4. 原美術館 ARC メンバー限定イベント 「Art in Town: 高橋龍太郎コレクション」

日時：2023年6月24日（土）16:25 集合

参加費：2,000円

WHAT MUSEUM（天王洲）で開催された「高橋龍太郎コレクション『ART de チャチャチャー日本現代アートのDNAを探る一』」展を訪問した。精神科医でもある高橋氏が収集した3000点を超える現代アート作品の中から選ばれた約20点で構成された同展を、展覧会担当者と共にめぐり、作品解説をしていただいた後に自由見学とした。また、同時開催の能條雅由氏の公開制作「うつろいに身をゆだねて」も、作家による解説を交えてメンバーの皆様にご鑑賞いただいた。

参加人数：18名

5. 夏休みワークショップ ろうけつ染めでうちわをつくろう

講師：大竹夏紀（アーティスト）

日時：2023年7月15日（土）10:00-14:00-（所要時間各約120分）

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：2,000円（入館料別）

毎年夏休み期間に開催しているうちわを作るワークショップ。今回は県内在住の染色アーティスト大竹夏紀氏を講師に、ろうけつ染めでうちわをつくる回を初開催した。専門的な道具が必要な「ろうけつ染め」を体験する数少ない機会でもあり、作家指導のもとオリジナルのうちわを作れることが好評を得て、予約枠がすぐに埋まるほど期待値の高いワークショップとなった。当日は作家のファンを中心に、小学生からシニア世代まで幅広く、午前・午後の回合わせて12名が参加。回廊から見えるさわやかな景色や、展覧会も合わせて、原美術館 ARC で過ごす「アートなひととき」をお楽しみいただいた。

参加人数：12名

6. 夏休みワークショップ アートうちわをつくろう

日時：2023年7月22日（土）、23日（日）、24日（月）

各日 10:00-13:00-15:00-（所要時間約40分）

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：600円（入館料別）

毎年開催している、染料で染めた和紙を用いてうちわをつくるワークショップを3日間の日程で開催。参加者は当館スタッフの指導のもと、折りたたんだ和紙を顔料インクで思い思いに染め、それを広げてうちわの骨に貼りつけて仕上げるもので、主に親子での来館者や小学生をターゲットにしている。簡単なワークショップを通して作品を作る楽しみを育み、また出来上がりの違いや個性を比べてみることで美術に親しむ感性を養うことを目的としている。事前予約も必要ないことから、飛び入りでの参加者も多くみられた。

参加人数：59名（3日間）

7. Art in Town「中之条ビエンナーレ 2023 日帰りバスツアー」（高崎発着）

日時：2023年9月23日（土・祝）9:50（集合）-18:00（解散）

参加費：7,900円（高崎駅乗降）、7,400円（中之条駅乗降）

群馬県中之条町で開催される国際現代芸術祭「中之条ビエンナーレ」を日帰りで巡る、ツアーガイド付きの高崎発着バスツアー。会場の「やませ・岩本稚蚕飼育所」では、参加アーティストの西島雄志氏、山形敦子氏から制作についてお話いただくなど、美しい里山に囲まれた中之条町での、美術館での展覧会鑑賞とは一味違うアート体験を提供し、主に県外のメンバーに群馬県の魅力を体感してもらうことで、会員継続のモチベーション維持の一助とした。また一般参加者には、当館のメンバーシッププログラムの活動について知っていただき、入会のきっかけとなることを目指した。

参加人数：23名（メンバー12名、一般11名）

8. 令和5年度AIRアートプロジェクト ラーニングプログラム/染色プログラム

山本愛子「NATURE COLOR PICNIC」

日時：2023年9月30日（土）13:30-15:30

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：無料（入館料は別途、群馬県教育文化事業団が負担）

群馬県教育文化事業団主催による「令和5年度AIRアートプロジェクト」のプログラムの一環で、同プロジェクト参加作家の山本愛子氏によるワークショップを当館で開催。

今回のプログラムでは、山本氏が榛名湖や桐生のレジデンスに滞在中に採集した植物や伊香保の温泉水を使用し参加者とともに染料づくりから染色までを行った。

参加人数：15名

主催：公益財団法人群馬県教育文化事業団、群馬県、原美術館 ARC

後援：群馬県教育委員会

9. 屋外作品ガイドツアー

日時：2023年10月21日（土）、29日（日）各日11:00-12:00

会場：原美術館 ARC 屋外

参加費：500円（入館料別）

昨年から進めていた原美術館からの屋外作品の移設作業が、9月の李禹煥「関係項」を最後に全て揃い、また当館常設作品の作家でもあるオラファー エリアソンが、この秋、第34回高松宮殿下記念世界文化賞を受賞したことで再注目を集めるタイミングでもあったため、当館では初めて屋外ガイドツアーを企画した。参加者は当館学芸員による屋外作品や建築、植栽や季節ごとの楽しみ方の説明に耳を傾けつつ、質疑応答を交えながら和やかな会となった。展覧会とは別の側面から当館の魅力を知っていただく機会でもあるため、来年度以降も引き続き開催を検討したい。

参加人数：8名

10. メンバーシッププログラム 賛助会員イベント「京都のアートプログラム」

日時：2023年10月27日（金）-10月29日（日）

参加費：無料

京都で開催される現代美術に特化したアートフェア「Art Collaboration Kyoto (ACK)」のVIP担当手銭氏、高村氏にご協力いただき、当館賛助会員と寄付者の方をACKのVIPとしてお招きいただいた。フェア会場の他、京都市内のアートスポットや関連企画、アーティスト名和晃平氏のスタジオ訪問なども含まれるプログラムとなった。特別なプログラムに参加していただくことで、会員継続あるいは上のカテゴリーへのステップアップの動機付けとすることを目的とした。

参加人数：7名（個人賛助会員6名、寄付者1名）

11. 担当学芸員による展覧会ガイド

日時：2023年11月19日（日）11:00-12:00

会場：原美術館 ARC ギャラリーA、B、C、特別展示室 観海庵

参加費：500円（入館料別）

開催中の展覧会「青空は、太陽の反対側にある」第2期（秋冬季）の見どころや当館のコレクションに加えられた背景などを担当学芸員が解説。当時の“女性アーティスト”の枠に囚われず、彫刻表現を拡張した久保田成子や、美術の伝統的価値に異を唱えた「反芸術」の作家など、当館が40余年の歳月をかけ収集した現代美術作品を、質疑応答を交えながら紹介した。

参加人数：6名 ※12月9日は参加希望者がいなかったため中止

12. Meet the Artist: 奈良美智

日時：2023年12月2日（土）16:00-17:30

会場：原美術館 ARC ギャラリーA

聴講料：1,500円（入館料別）

開催中の展覧会「青空は、太陽の反対側にある」にて期間限定のインスタレーション作品を

展示している奈良美智氏をお招きし、ギャラリーA内に特設場所を設け、講演会を開催した。生まれ育った環境や、幼少期から学生時代の友人との思い出、美術の道に進むきっかけとなったエピソードなど、数多くの写真を交えながら自身の作家人生を振り返る内容に多くの参加者が真剣に耳を傾けた。また参加者による質疑応答にも丁寧にお答えいただき、予定時刻を超過して盛会のうちに終了した。

参加人数：101名

(学生招待バスツアー26名、高崎発着バスツアー35名、メンバーシップ17名、一般参加6名、関係者・招待者17名) ※関連バスツアーを含めすべて抽選を行った

13. 次世代リーダーのための感性育成プログラム ③美術を学ぶ学生のためのバスツアー

日時：2023年12月2日(土) 10:00(集合・バス出発) -21:00(バス到着・解散)

参加費：無料

本年度開催の「次世代リーダーのための感性育成プログラム」第3回目として、美術を学ぶ学生を対象とした東京都(新宿)と原美術館ARCを往復するバスツアーを開催した。

午前中は2班に分かれ、展覧会鑑賞と、普段は非公開の開架式収蔵庫のガイドツアーを行い、午後は奈良美智氏の講演会へ参加。国内外の現代美術の第一線で活躍する作家のルーツや、学生時代の話に真剣に耳を傾けた。

参加人数：24名

助成：一般財団法人MRAハウス

協力：奈良美智

14. 奈良美智アーティストトーク in 原美術館ARCバスツアー

日時：2023年12月2日(土) 10:50(集合・バス出発) -19:00(バス到着・解散)

参加費：5,300円(学生無料、原美術館ARCメンバーシップ会員3,300円)

奈良美智氏による講演会に合わせ、高崎駅発着の募集型のバスツアーを企画。参加者特典として、開架式収蔵庫のガイドツアーへの参加と、伊香保グリーン牧場内の散策をつけ、トーク開始まで自由に楽しんでいただいた。

また今回、高崎駅発着のバスは県内・県外問わず利便性が良いことから引き続き催行してほしいという声も再度多く寄せられ、次年度から定期的な運行を開始するきっかけとなった。

参加人数：35名

旅行企画・実施：関越交通株式会社

15. 次世代リーダーのための感性育成プログラム ④県内留学生を対象とした「グローバルアートツアー」

日時：2023年12月27日(水) 10:00(集合・バス出発) -15:30(バス到着・解散)

参加費：無料

「次世代リーダーのための感性育成プログラム」の4回目(最終回)として、県内で学ぶ留学

生を対象としたバスツアーを開催。

昨年に引き続き地元の群馬大学共同教育学部との協働で、「グローバルアートツアー」と称して、留学生の他、日頃よりグローバルな視点を身につけるために英語や翻訳を学ぶ学生、学生チューター、GFL（グローバルフロンティアリーダー）などが参加。電車の乗り換え等にやや不安があるとの声から大学前発着のバスを用意した。美術館到着後は、当館学芸員を交えて対話型鑑賞を行い、またカフェでのランチや、午後は隣にある伊香保グリーン牧場内を自由に散策。大学とは環境を変えることで、学生に新しい気づきを促す有意義な時間となった。

参加人数：22名（学生16名、教員3名）

助成：一般財団法人MRAハウス

協力：群馬大学共同教育学部

16. 原美術館 ARC メンバー限定イベント Art in Town: MOT アニュアル 2023

日時：2024年1月27日（土）13:50（集合）

参加費：2,000円

注目の展覧会を見学する、原美術館 ARC メンバーシップ会員のための特別プログラムとして、東京都現代美術館で開催の「MOT アニュアル 2023」特別レクチャーと展覧会自由鑑賞を行った。当日は、主任学芸員の森山朋絵氏より、展覧会について解説いただいたのち各自で自由に展覧会を鑑賞した。

参加人数：16名

17. 原美術館 ARC メンバー限定イベント 開架式収蔵庫ツアー（所要時間約60分）

日時：2023年4月1日（土）14:30- 4名

5月6日（土）11:00- 4名

6月3日（土）11:00- メンバー2名、一般10名

7月1日（土）14:30- 1名

8月5日（土）11:00- 2名

9月9日（土）14:30- 8名

10月7日（土）11:00- 1名

11月4日（土）11:00- メンバー1名、一般12名

12月2日（土）13:30- 19名 14:00 8名

2024年1月6日（土）11:00- 10名

2023年度よりメンバー特典として開催している開架式収蔵庫ツアー。通常は非公開の開架式収蔵庫内で、当館の所蔵作品や開催中の展覧会について解説する機会とした。

※6月3日（土）、11月4日（土）は一般参加者（有料：500円/入館料別）あり。

※12月2日（土）は奈良美智アーティストトーク開催とあわせ13:30/14:00の2回開催。

参加人数合計：82名

【2】外部協力

青野和子

東京都現代美術館 美術資料収蔵委員会委員

群馬県文化審議員

群馬県 AIR アートプロジェクト運営委員

群馬県博物館連絡協議会 副会長

渡辺純子

アジアン・カルチュラル・カウンシル日本財団 理事

坪内雅美

学習院大学 非常勤講師

【3】所蔵作品の貸し出し

(1)貸出先: DIC 川村記念美術館

期間: 2023年7月19日から2023年11月21日

理由: 「ジョセフ・アルバーズの授業: 色と素材の実験室」展(2023年7月29日から11月5日)への貸し出し出品のため

作家名: ジョセフ アルバーズ

作品名: 《四角形へ捧ぐ》(1961年)

(2)貸出先: 青森県立美術館

期間: 2023年9月6日から2024年3月11日

理由: 「奈良美智: The Beginning Place ここから」展(2023年10月14日から2024年2月25日)への貸し出し出品のため

作家名: 奈良美智

作品名: 《My Drawing Room》(2004/2021年)、《Eve of Destruction》(2006年)

(3)貸出先: 世田谷美術館

期間: 2023年8月16日から2024年2月1日

理由: 「倉俣史朗のデザイン-記憶のなかの小宇宙」展(2023年11月18日から2024年1月28日)への貸し出し出品のため ※三会場の巡回展の第一会場

作家名: 倉俣史朗

作品名: 《インペリアル》(1981年)

(4)貸出先: 富山県美術館

期間:2024年2月1日から2024年4月11日

理由:「倉俣史朗のデザイン-記憶のなかの小宇宙」展(2024年2月17日から2024年4月7日)への貸し出し出品のため ※三会場の巡回展の第二会場

作家名:倉俣史朗

作品名《インペリアル》(1981年)

(5)貸出先:横尾忠則現代美術館

期間:2024年1月14日から2024年5月14日

理由:「横尾忠則 ワーイ! ★Y字路」展(2024年1月27日から5月6日)への貸し出し出品のため

作家名:横尾忠則

作品名:《暗夜行路 眠れない街》(2001年)、《暗夜行路 2001年9月11日》(2001年)

(6)貸出先:埼玉県立近代美術館

期間:2023年12月26日から2024年5月21日

理由:「アブソリュート・チェアーズ」展(2024年2月17日から5月12日)への貸し出し出品のため
※二会場の巡回展の第一会場

作家名:ジム ランビー

作品名:《トレイン イン ヴェイン》(2008年)

【4】学校、団体来館の記録

〈内訳〉中学校・高等学校2件、大学4件、一般団体他33件 756名

詳細

・学校団体6件 (157名)

群馬大学 手話通訳実習(8名)、多摩美術大学 絵画学科油画専攻(24名)、
多摩美術大学 彫刻学科(7名)、国立台湾師範大学(18名)、
横須賀総合高校 美術部(82名)、高崎市立長野郷中学校 美術部(18名)

・一般団体29件 (483名)

ときの忘れもの(24名)、多田美波研究所(16名)、日本コカ・コーラ(20名)、
TOKYO GENDAI(26名)、下関市立美術館 友の会(22名) 他

・その他(MRAハウス助成バスツアー等)4件 (116名)

【5】ポスター・チラシなどの作成配布

	ポスター	チラシ
「青空は、太陽の反対側にある:原美術館/原六郎コレクション」		
第1期	100枚	30,000枚
第2期	100枚	25,000枚

「日本のまんなかでアートをさげんでみる」	ポスター	チラシ
	第1期	100枚 30,000枚
原美術館 ARC 施設紹介 三つ折りパンフレット		30,000枚

C. 広報

原美術館ARC

取材件数 182件(和文媒体 180件／外国語媒体 2件)

本年度開催の展覧会「青空は、太陽の反対側にある」展も春夏季・秋冬季の2期で開催。展覧会のオープニングレセプションは第1期、第2期とも開催せず、3月24日と9月11日にそれぞれ担当学芸員によるプレスを対象としたガイドツアーを行った。

なかでも春夏季は、3月24日から4月26日までの間、国宝「青磁下蕪花瓶」を当館では約10年ぶりに展示することとなり、新聞社ほか各媒体で多く取り上げられた。続く秋冬季は、ギャラリーB内に設置している奈良美智氏「My Drawing Room」を青森県立美術館での個展のために貸し出すこととなり、その間、期間限定インスタレーション作品を展示することがメインの話題となった。写真撮影も可能なことから、メディアだけでなくファンの注目を集め来館を促した。また12月2日に開催された奈良氏の講演会に先立ち、SNSやウェブサイトだけのアピールだけでなく、展示作業中に収録した動画のインタビューを当館公式YouTubeにて公開、作家とともに展覧会を作り上げている様子を効果的にアピールした。昨年に引き続き、満腹家もぐもぐ氏に作品のイラスト解説を依頼し、こちらも好評なことから、今後も展覧会開催情報だけの情報発信に留まらない多角的な試みを行いたい。

施設広報では、日本経済新聞 NIKKEI プラス1 何でもランキング「景観に溶け込む美術館」の第10位に選ばれたほか、朝日新聞マリオンではミュージアムショップ商品の「日本列島の方位磁針」が取り上げられ、オンラインショップでの販売数が急増するなど、新聞掲載を良い形に繋げることができた。また、外国語媒体では日本文化を海外に紹介するソフィ リチャード氏のYouTube配信動画「Encounters with Japan」の取材を受けた。

この他、統合前に配布していた、県内観光施設向けのパンフレットをバイリンガルにリニューアルし、3月より配布を開始している。伊香保温泉を中心に、群馬県内を訪問する国内外の観光客へのより一層の周知を目指したい。

なお、館公式のX(旧twitter)はフォロワー数約122,000人から約120,000人と減少した一方、Instagramは約32,000人から約35,000人へと増加している。

■ 展覧会 計 133 件(和文 132 件／外国語 1 件)

1. 青空は、太陽の反対側にある:原美術館／原六郎コレクション

(2023年3月24日－2024年1月8日) 124件[和文 123件／外国語 1件]

2. 日本のまんなかでアートをさげんでみる

(2024年3月16日－2024年9月8日) 9件[和文9件]

■ 施設紹介、他 計49件(和文48件／外国語1件)

1. ARC 施設紹介 28件[和文27件／外国語1件]
2. イベント、ワークショップ 8件[和文8件]
3. カフェ ダール 1件[和文1件]
4. ザ・ミュージアムショップ 4件[和文4件]
5. SHOP@CAFE 4件[和文4件]
6. ARC その他 2件[和文2件]
7. その他 2件[和文2件]

<掲載媒体> (和文／外国語、順不同)

【新聞】上毛新聞、読売新聞、読売新聞(夕刊)、タウンぐんま(群馬読売)、朝日新聞、朝日ぐんま、毎日新聞、東京新聞、日本経済新聞、新美術新聞(美術年鑑社)、東洋経済日報、しんぶん赤旗

【美術・デザイン専門誌】月刊ギャラリー(ギャラリーステーション)、美術の窓(生活の友社)、BM/美術の杜(美術の杜出版株式会社)

【その他・専門誌】全国博物館総覧、博物館研究(日本博物館協会)、蛍雪時代(旺文社)

【一般誌】和楽(小学館)、HIRAGANA TIMES.(株式会社ひらがなタイムズ)、FREECELL(プレビジョン)

【女性誌】pumpkin(潮出版社)、FUDGE(三栄)、ゆうゆう(主婦の友社)

【情報誌】月刊 bilick(有限会社シンクリード)

【ガイドブック】群馬の博物館・美術館ガイドマップ(群馬県博物館連絡協議会)、るるぶ情報版(JTB パブリッシング)、ココミル(JTB パブリッシング)、まっふる群馬(昭文社)、まっふるドライブ(昭文社)

【ムック・書籍】美術展ぴあ 2024(ぴあ株式会社)、美術展ナビ BOOK2023(旅行読売出版社)、宇南山卓著 『現代日本の消費分析』(慶応義塾大学出版会)

【スマホアプリ】チラシミュージアム(イープラス)、ミューぼん(株式会社アートビート)、週刊じゃらん(株式会社リクルート)、ArtSticker

【ウェブサイト】美術手帖(美術出版社)、Internet Museum(丹青社)、TOKYO ART BEAT(株式会社アートビート)、Tokyo Live&Exhibits、JDN(JDN)、Walkerplus(KADOKAWA)、art scape(大日本印

刷)、art commons(国立新美術館)、Art iT(アートイト)、美術展ナビ(読売新聞)、アートアジェンダ(FAITH)、芸術広場、今見られる全国おすすめ展覧会 100(KATYCOM)、Euphoric(ユアムーン株式会社)、アートテラー・とにへの【ここにしかない美術室】、Sfumart(株式会社ミュージアムマン)、群馬県の博物館・美術館をかんとん検索(群馬県博物館連絡協議会)、美術館巡りのお手伝い!、DECOROO(アートコラム)、This is Media(thisis 株式会社)、日本美術倶楽部(株式会社エデル)、シェアアート(株式会社 ShareArt)、ACC、Casa BRUTUS(マガジンハウス)、SPUR.JP(集英社)、ことりっふ(昭文社)、nu リノベーション(株式会社ニューユニクス)、watoji オリジナル(ザ・クリエイション・オブ・ジャパン)、Premium Japan(株式会社プレミアムジャパン)、ぴあポイント(チケットぴあ)、カラージ、東京アートニュース(株式会社 MAP&NEWSnet)、NEWS WEB(NHK)、心にググっと観光ぐんま(群馬県)、おーる群馬、Fashion Press(Fashion Press)、旅色(ブランジスタメディア)、NAVITIME Travel (ナビタイムジャパン)、群馬県民カレッジ(群馬県生涯学習センター)、goo ニュース(NTT レゾナント)、じゃらんニュース(リクルート)、伊香保づくし(伊香保温泉旅館協同組合)、日本旅行(株式会社日本旅行)、BIGLOBE 旅行(ビッグロブ)、ゆこゆこ、るるぶ&more(JTB パブリッシング)、関越交通、他

【YouTube】Encounters with Japan A Video Series by Sophie Richard、ヒゲとわたし

【その他】渋川市くらしの便利帳(渋川市)、テレマップ(伊香保温泉旅館協同組合)、渋川市情報誌 Kirari しぶかわ(渋川市)、関西テーマ旅行センター(クラブツーリズム)、住まいの建築史 近代日本編(創元社)

D. Hara Museum Web

www.haramuseum.or.jp

blog:www.art-it.asia/u/HaraMuseum

Twitter: @haramuseum_arc

Instagram: @haramuseumarc

令和5年度の動き

展覧会ページに奈良美智氏のインタビュー動画を見られるリンクを付ける、スペシャルページにイベントレポートを掲載するなど、より当館と所蔵作品へ親しみを持ってもらえるようなウェブサイトの構築を心掛けた。今後は所蔵作品のイラスト解説をまとめて閲覧できるよう更新を行う予定である。

<アクセスログ解析(<https://www.haramuseum.or.jp>)>

・アクセス数

*月平均訪問者数 0.3 万件 (昨年度 0.3 万件)

*月平均訪問件数 1.6 万件 (昨年度 0.9 万件)

*月平均閲覧ページ数 0.9 万ページ (昨年度 0.9 万ページ)

*月別最多訪問者数 1.0 万件 (2023年7月 青空展第1期)

E. 海外交流

【1】 招聘 なし

【2】 派遣 なし

F. メンバーシップ

【1】 メンバーシップの動き

令和 5 年度は、フレンズ会員の 카테고리 と会費、特典内容の見直しを行った。カテゴリーを「フレンズ・シングル会員(5,000 円/年)」「フレンズ・ペア会員(8,000 円/年)」の 2 つのカテゴリーに分け、利用者の必要に応じて、同伴者無料入館の特典の有無を選べる内容とした。

このほか、全会員への新たな特典として原則毎月第一土曜日に「原美術館 ARC メンバー限定開架式収蔵庫ツアー」を開催し好評を博した。通常は非公開の開架式収蔵庫を特別に見学できるほか、開催月によってはギャラリーガイドや屋外作品の解説も含めるといった形で内容を替え、様々な角度から当館ならびにコレクションへの理解を深める一助となることを目指した。Art in Town では What Museum、東京都現代美術館といった都内のアートスペースを訪問したほか、9 月には群馬県で開催された「中之条ビエンナーレ」をめぐるバスツアーを開催し、メンバーの皆様に東京と群馬それぞれの場所で最新のアートに触れる機会を提供することができた。引き続き、群馬県内の方、東京・首都圏在住の方、どちらにも魅力あるプログラムを提供し、会員数増員を目指してゆきたい。

会費・会員数推移

令和 5 年度は都内の会員の継続数が伸び悩み、残念ながら会員数の減少に繋がったが、「フレンズ・ペア会員(8,000 円/年)」のカテゴリーを増やしたことで、フレンズ会員の会費金額は若干の増収となった。

令和5年度末における会員総数は87件。新規加入22件、継続加入65件。

(単位:円、消費税込)

令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
会員数	会費金額	会員数	会費金額	会員数	会費金額
201	5,320,000	106	5,180,000	87	4,785,000

※この他、令和 5 年度分の法人賛助会員継続年会費 1 件(500,000 円)が令和 6 年 4 月に入金された。

【2】 カテゴリー別会員数

フレンズ会員 62 名、個人賛助会員 16 名、法人賛助会員 9 社

II. 庶務事項

A. 役員に関する事項

令和6年3月31日現在

(50音順)

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
評議員	麻生和子	R1.6.19		一般財団法人アジアン・カルチュラル・カウンシル日本財団 代表理事
評議員	大林剛郎	H23.11.1		株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長
評議員	佐藤陽一郎	R4.7.29		太陽グラントソントン税理士法人 代表社員 税理士
評議員	徳川義崇	H27.6.25		公益財団法人徳川黎明会 会長
評議員	原直道	H23.11.1		日本土地山林株式会社 代表取締役社長
評議員	丸山剛郎	H27.6.25		大阪大学名誉教授、特定非営利活動法人日本咬合学会 理事長、歯学博士

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
理事長	原俊夫	H23.11.1	常勤	日本土地山林株式会社 取締役会長
常務理事	原洋子	R1.6.19	常勤	株式会社アーテック 取締役
理事	國生肇	H23.6.30		國生肇法律事務所 弁護士
理事	坂本正	H23.6.30		学校法人高輪学園 理事長
理事	平野信行	R4.7.29		株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問
理事	安田信	H23.6.30		株式会社安田信事務所 代表取締役社長

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
監事	千葉雄二	H27.6.25		千葉雄二税理士事務所 税理士
監事	野嶋慎一郎	H23.6.30		野嶋慎一郎法律事務所 弁護士

B. 職員に関する事項

令和6年3月31日現在

所 属	主な役職者、部署別人数	担 当 業 務
原美術館ARC	館長 青野和子	美術館統括 主任学芸員 教育プログラム事項 作品管理事項
	学芸部 2名	学芸事項
	管理部 1名	管理業務
理事長室	1名	国際プログラム事項 メンバーシップ事項
事務局	事務局長 加藤隆一	法人事務
合 計	6名	

(備 考)

1.上記の他、アルバイトが常勤している。

C. 役員会事項

1. 評議員会

【第1回開催】令和5年6月20日

[報告事項]

(1) 令和4年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)事業内容報告の件

[決議事項]

(1) 令和4年度(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)計算書類審議の件

(2) 評議員5名選任の件

(3) 理事6名 監事2名選任の件

[結果] 報告事項について議長は、令和4年度の事業経過につき、理事長他担当学芸員等に説明を求め、別添資料に基づく詳細な説明がなされた。

決議事項1号議案について議長は、令和4年度の計算書類承認の件を上程し、事務局長に計算書類の内容について説明を求め、事務局長により別添資料に基づき詳細な説明がなされた。合わせて監事より令和4年度決算について、計算関係書類が法人の損益及び財産の状況を適正に示していること、また、令和4年度事業報告書及びその附属明細書について、法令及び定款に従い法人の状況について正しく示していることを認めた旨の監査報告がなされた。そこでこれを議場に諮ったところ、出席評議員全員一致をもって原案通り承認可決した。

2号議案について議長は、評議員5名選任の件を上程し、本議案につき理事長に説明を求めたところ、評議員5名が本定時評議員会終結の時をもって任期満了退任する事になるので、改めて評議員5名の下記候補者につき、諮るものである旨説明を受けたので、被選任者ごとに個別にその可否を議場に諮ったところ、出席評議員全員一致をもって原案通り承認可決した。

記

評議員候補者	麻 生 和 子	(重任)
評議員候補者	大 林 剛 郎	(重任)
評議員候補者	徳 川 義 崇	(重任)
評議員候補者	原 直 道	(重任)
評議員候補者	丸 山 剛 郎	(重任)

尚、被選任者は、それぞれ直ちに就任を承諾した。

3号議案について議長は、理事6名 監事2名選任の件を上程し、本議案につき

理事長に説明を求めたところ、理事6名監事2名が本定時評議員会終結の時をもって任期満了退任することになるので、改めて理事6名監事2名の下記候補者につき、諮るものである旨説明を受けたので、被選任者ごとに個別にその可否を議場に諮ったところ、出席評議員全員一致をもって原案通り承認可決した。

記

理事候補者	國 生 肇	(重任)
理事候補者	坂 本 正	(重任)
理事候補者	原 俊 夫	(重任)
理事候補者	原 洋 子	(重任)
理事候補者	平 野 信 行	(重任)
理事候補者	安 田 信	(重任)
監事候補者	千 葉 雄 二	(重任)
監事候補者	野 島 慎 一 郎	(重任)

【第2回開催】令和5年8月28日（評議員会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

(1) 定款改正承認の件

〔結果〕令和5年8月16日、理事長原俊夫が評議員全員に対して上記評議員会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該決議事項につき、令和5年8月28日評議員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決す旨の評議員会の議決があったものとみなされた。

2. 理事会

【第1回開催】令和5年6月5日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

- (1) 令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）事業報告内容を報告し、計算書類等承認決議の件
- (2) 定時評議員会招集決議の件

〔結果〕令和5年5月29日、理事長原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和5年6月5日

に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第2回開催】令和5年6月20日

〔決議事項〕

(1) 代表理事1名選定の件

〔結果〕議長は、当財団定款第32条第1項の規定により、当財団の代表理事（理事長）1名を互選により選定する必要がある旨を述べ、この選定につき一同に諮ったところ、互選により下記の者を代表理事として選定した。

記

代表理事（理事長） 原 俊 夫 （重任）

【第3回開催】令和5年8月2日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

(1) 評議員への定款変更の提案の件

定款改正承認の件を評議員会の目的である事項とし、評議員会の決議の省略により行なうことを各評議員に提案する。

〔結果〕令和5年7月19日、理事長原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該決議事項につき、令和5年8月2日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなされた。

【第4回開催】令和6年3月19日

〔決議事項〕

(1) 令和6年度（令和6年4月1日より令和7年3月31日）事業計画及び収支算承認の件

(2) 現代美術作品寄附受入れ承認の件

〔報告事項〕

(1) 令和5年度（令和5年4月1日より令和6年2月29日現在）事業執行状況報告の件

〔結果〕第1号議案について議長は、令和6年度の事業計画及び収支予算について別添資料の通りとしたい旨と適宜学芸員等によりその内容を説明し、これを出席者一同に諮ったところ、全員一致をもって原案通り可決承認した。

第2号議案について議長は、議長が所有している現代美術10点を当財団へ寄付したい旨を報告し、これを出席者一同に諮ったところ、全員一致をもって原案通り可決承認した。

報告事項について議長は、令和5年度、令和5年4月1日以降の業務執行の状況説明のため、令和6年2月29日現在の別添資料に基づき、事業の推移と令和6年3月期の収支決算予想について説明し報告した。

D. 関連組織兼任事項

理事長原俊夫が役員を兼任する外部関連団体、役職

令和6年3月31日現在

1. ニューヨーク近代美術館国際評議会 名誉会員
2. ホノルル ミュージアム オブ アート 名誉評議員
3. 公益財団法人徳川黎明会 評議員
4. 公益財団法人大林財団 名誉評議員

E. 庶務

1. 博物館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準、望ましい基準
群馬県に対し「青少年を対象にした取り組み等に関する実績報告」を令和5年6月28日に届出した。

Ⅲ. 委託付帯事業

原美術館 ARC において株式会社アーテックが当財団より委託され営業している The Museum Shop 及びカフェ ダールの運営状況は次の通りである。

【1】物販（The Museum Shop）

年間販売額	1,594 万円（税別）	
年間利用客数	4,935 名	対総入館者比 22%
〔内訳〕 店舗販売	1,306 万円（税別）	4,774 件
オンライン販売	113 万円（税別）	151 件
通販・卸・委託販売	175 万円（税別）	10 件

主な販売商品

SHOP@CAFE 企画：井上文太（版画作品）

オリジナルポストカード、オリジナルグッズ、草間彌生グッズ、奈良美智グッズ、鈴木康広グッズ、倉俣史郎ポスター、内倉ひとみマルチプル、コムデギャルソン香水、LOQI エコバッグ、MiW ハンカチ、ぼれぼれ動物オブジェ、KISSO アクセサリーなど、約 1,000 品目。

【2】飲食（カフェ ダール）

年間販売額	810 万円（税別）	
年間利用客数	7,867 名	対総入館者比 35.9%

IV. 寄付金等に関する事項

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：円)

寄付の目的	寄付者	領収金額	備考
1. 寄付金	個人	10,300,000	5件
	法人	6,300,000	2件
	寄付金計	16,600,000	
2. 助成金	一般財団法人MR Aハウス	1,000,000	次世代リーダーのための感性 育成プログラム Vol.2
	助成金計	1,000,000	
	合計	17,600,000	

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。